

議題1. 市長の公約「緑化倍增計画」について

- 1) 市長は、緑化推進「緑の倍增」を公約としてきたが、4年間でどこまで進めたのか。
- 2) 校庭や園庭の芝生化以外に何か施策を講じたのか。
- 3) まさか、合併して吉良や幡豆の山や田畑が増えたことで、緑化倍增ということではないと思うがどうか。
- 4) 都市公園面積は一向に増えず、依然として、市民ひとり当たり面積は岡崎（10.8平米）、刈谷（8.5平米）の半分の4.3平米である。碧南、安城にも遅れをとっているが、このままでよいのか。
- 5) なかでも、市民に一番身近な街区公園でみると、岡崎市44ha、刈谷市27ha、安城市22haに比べると、本市は合併後も8haという格段の低さだが、市長はどう認識しているのか。
- 6) 「緑の倍增計画」については達成できないままで、今期は掲げないのか。
- 7) 区画整理頼みではなく、積極的に予算を組んで「公園」「緑地」を設置していくべきではないのか。
- 8) 遊休民地を借り上げて公園にしているところが、旧西尾地域に現在4箇所あるが、旧3町地区も含め、これをもっと積極的に増やしていかないか。
- 9) 「緑のマスタープラン」には、街路樹を増やす「緑の回廊計画」があるが、新設街路に街路樹が植えられず、回廊は途切れたままである。また、熊味今川線のように道路拡幅後も植栽が一部片側にしかないなど、一向に進まないがなぜか。
- 10) 街路毎に、その土壌や環境に見合った街路樹を選定する「街路樹のカルテ」は一部地域では取り入れられているようだが、その範囲を拡げていかないか。

- 11) 市民に花壇などの里親になっていただく「アダプトプログラム制度」があるが、街路樹も含め、さらなる充実を考えるべきではないか。
- 12) 市は、樹木を植える場所を提供し、市民には樹木を寄付していただく「市民の森」をつくらないか。
- 13) 現在、新たな「緑のマスタープラン」策定中だが、新たな目標値はどのように定めるのか。